SONRISA

# そんりさ vol.189

メキシコ初の女性大統領誕生の陰で

選挙キャンペーン中のクラウディア･シェインバウム次期大統領、ロペス・オブラドール現大統領、クララ･ブルガダ次期メキシコ市市長
出典　https:// regeneracion.mx/claudia-sheinbaum-y-yo-vamos-a-defender-el-legado-de-amlo-clara-brugada/


02　メキシコ初の女性大統領誕生の陰で　……小林　致広
05　シナロアの大ボス、エル･マヨ逮捕とシナロアの謎　……山本　昭代
09　コロンビア紛争被害者が多国籍バナナ企業に勝訴　……柴田　大輔
10　2024 年、INTAG 最高裁で勝利　……一井リツ子
12　ペルー音楽 ラテンアメリカにおけるフェミニズムをめぐる歌の旅(5)　……水口　良樹
14　ラ米百景　墨都の旧スペイン共和国大使館が歴史記念物に　……伊高　浩昭
15　ムネちゃんの LA 情報拾い読み・斜め読み　……小林　致広


2024 年８月 17 日　日本ラテンアメリカ協力ネットワーク（RECOM）発行

# メキシコ初の女性大統領誕生の陰で

小林　致広

2024 年 6 月 2 日、メキシコでは大統領、国会議員（下院 500、上院 128）、9 州知事、31 州議会、30 州の約 1700 行政区首長選挙が行われた。大統領選挙では、国民再生運動（MORENA）・労働党（PT）・環境緑の党（PVEM）の与党統一候補クラウディア・シェインバウムは約 60%の得票率で、国民行動党（PAN）・制度的革命党（PRI）・民主革命党（PRD）の野党統一候補ショチトル・ガルベス（27%）と市民運動（MC）のホルヘ・アルバレス・マイネス（10%）に大差で勝利した。

与党連合は下院で憲法改正に必要な 3 分の 2 の議席を超す 373 議席を獲得したが、上院 82 議席は 3 分の 2 の議席（85）にわずかに及ばなかった。野党の得票率は 2018 年選挙から大きく減少し、PRI は、大統領選挙で－4%、下院選挙で－6%と、3 分の 2 以下に落ち込んだ。PRD の凋落は顕著で得票率 3%未満で連邦レベルの政党登録を失った。2019 年に与党に鞍替した PVEM の下院得票率（8.4%）は 1.6 倍も増え、PAN に次ぐ 3 位だが、議員数（75 名）では PAN を抑え第 2 勢力となった。

知事選挙ではメキシコ市長を含め 7 州で与党候補が勝利、州議会選挙では 27 州で与党連合が多数派となった。行政区首長選挙でも、与党連合系が 974 行政区（全行政区の 54%）、野党連合系が 530 行政区（30%）、MC 系が 142 行政区（8%）と、現政権派の候補が多数派という結果となっている。

予想通りのロペス・オブラドール（AMLO）政権与党の地滑り的勝利、メキシコで初めての女性大統領誕生という形で、今回の選挙は語られている。AMLO 政権が推進する第 4 次変革（4T）路線の継続が承認・支持されたように見える総選挙の背後で、どのようなことが起きているのか、チアパス州の事例を中心に紹介したい。

## 「内戦状態」のチアパス州

2023 年半ば、全国先住民議会（CNI）は、チアパス州は「準軍事組織、ナルコ組織、自主防衛組織による内戦状態」と指摘していた。11 月には、サパティスタが反乱自治行政区（MAREZ）の解消を発表した。その理由として、犯罪集団カルテルの利権抗争の場となったサンクリストバル、コミタン、パレンケなどの都市や農村部の状況が、連邦・州政府の「無対応」で一層悪化したことが挙げられている。

| 政党 | 大統領得票率% | | 下院得票率% | | 下院議席 | 議席率% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| MORENA | 45.52 | 59.75 | 40.8 | 54.7 | 248 | 49.6 |
| PVEM | 7.78 | | 8.4 | | 75 | 15.0 |
| PT | 6.45 | | 5.4 | | 50 | 10.0 |
| PAN | 16.04 | 27.45 | 16.9 | 30.5 | 68 | 13.6 |
| PRI | 9.54 | | 11.1 | | 33 | 6.6 |
| PRI | 1.86 | | 2.4 | | 3 | 0.6 |
| MC | 10.32 | | 10.9 | | 24 | 4.8 |
| 独立 | 0.13 | | 0.1 | | 1 | 0.2 |

2024 年 6 月連邦選挙の政党別データ

州知事
MORENA:23 州
PAN:4 州
PRI: 2 州
MC:2 州
PVEM:1 州

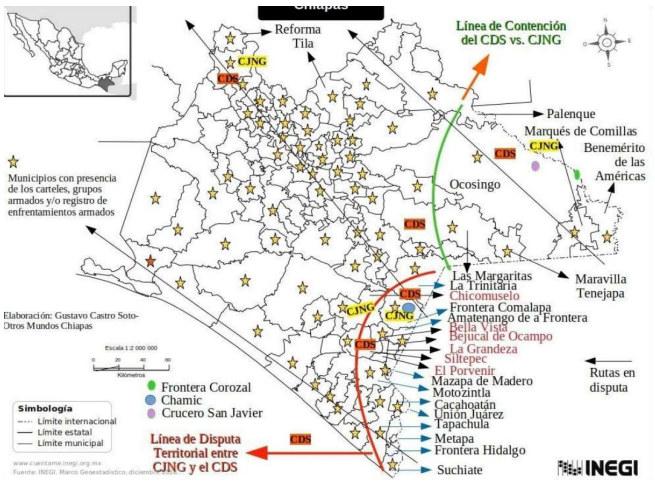
2024 年の州別政治地図

こうした状況が顕著になったのは PVEM のマヌエル・ベラスコの州知事就任（2012~18 年）以降である。州治安市民保護局や州検察庁のトップは、シナロア・カルテル（CDS）のチアパス方面のボス「ティオ・ヒル」とズブズブの関係にあり、CDS の活動は「お目こぼし」の状態だったとされる。

2018 年からの MORENA のルティルオ・エスカンドン知事（2018~24 年）の下でも、「お目こぼし＝庇護」体制は継続していた。今回の州知事選挙で MORENA のエドゥアルド・ラミレス・アギラルが 78%の得票率で当選したことから、この状況は今後も続く可能性が高いと思われる。

## 国境・山岳部での二つのナルコ勢力の抗争

CDS が独占状態だったチアパス州のシマ（plaza）にハリスコ・カルテル（CJNG）が本格的に介入しだしたのは 2021 年頃である。2021 年 7 月、州都トゥストラで CDS の「ティオ・ヒル」の後継者の息子「エル・ジュニア」の殺害を契機に抗争が始まった。2021 年 7 月末、CJNG が掌握した国境に隣接する山岳部のフロンテラ・コマラパ（以下コマラパと表記）と CDS の管轄するラ・トゥリニタリアの境界にあるチャミックで両者の激しい交戦が報告されている。




**2023 年段階のチアパス州の CDS と CJNG の利権をめぐる抗争**

**出典**：https://otrosmundoschiapas.org/el-escaramujo-122-chiapas-ubicacion-de-la-frontera-en-disputa

チアパス州でナルコ勢力が携わる事業は、グアテマラ方面からの麻薬や武器などの非合法物資や人的資源を受領し、メキシコ中央部までの運搬である。主要ルートとして、太平洋海路ルート、海岸沿いルート、パンアメリカン道路沿い中央ルート、ウスマシンタ川沿いの密林ルートがある。CDS と CJNG のの抗争は主に中央ルート沿いで発生している。

中央ルートは、パンアメリカン道路沿いの主要ルートとグリハルバ川河谷沿いの副次的ルートがある。海岸ルート沿いの移動が厳しく規制されだした 2021 年 9 月以降、北上する移民の多くがタパチュラから国境沿いに山岳部に移動し、河谷沿いに北に向かうようになった。移民の大半はコヨーテと呼ばれる斡旋業者が手配したコンテナ車に隠されて移動するため、「見えない移民ルート」と呼ばれる。

犯罪組織が浸透した地域では、教育、医療サービス、ごみ収集、建設事業、道路維持や食料供給、リクリエーションや祝祭の運営などの日常活動もナルコ勢力の管轄下におかれる。都市部では小規模自営業者から「みかじめ代」が徴収されている。

CJNG が掌握したコマラパに隣接するシルテペック（9 月 26 日、約 1 万人）、モトツィントラ（10 月 10 日、約 5 千人）、チコムセロ（10 月 12 日、約 5 千人）などでは、平和を求める住民による大規模な行進が行われた。チコムセロの市民行進を呼びかけた教員は 1 週間後に CJNG の武装部隊に襲撃され拷問・殺害された。

2024 年になると、暴力的状況はコマラパ周辺全域に拡大していった。モトツィントラ、ラ・グランデサ、シルテペックなどを取り戻した CDS が、CJNG の管轄下のチコムセロやラ・コンコルディアの共同体に攻勢をかけていった。2024 年 1 月 4 日、バリータ〔重晶石、バリウム製品の原料〕鉱山があるチコムセロのヌエバ・モレリアでの武力衝突で 20 名近くの死者が発生し、住民 700 名は山中に避難した。1 月 17 日までの間に、ラ・アンゴストゥラ・ダム湖の南岸のチコムセロ、ラ・コンコルディア、ソコルテナンゴの約 30 余りの共同体から、約 3 千人の住民が抗争を怖れて避難した。これらの共同体は、「見えない移民ルート」に沿って分布し、2023 年頃からチコムセロの共同体で CJNG が違法採掘したバリータの移動ルートとなっていた。

3 月 31 日にはラ・コンコルディア行政区の渡船場チャランで発生した武力衝突に介入した GN 部隊とナルコ勢力の交戦で 25 人以上が殺害された。AMLO は犠牲者数は過大であり、建設中の橋が完成すれば〔2024 年 8 月初旬一つが完成〕、地域に平和が訪れると能天気に表明していた。5 月 13 日にヌエバ・モレリアで 11 名の虐殺事件が起き、5 月 31 日には役場の隣の州選挙事務所が焼き討ちされ、チコムセロでの選挙はできなくなった。

チコムセロ以外に行政区選挙が実施できなかったのは、チアパス高地北東部のパンテロー行政地区だった。パンテローの場合は、特定一族による行政区役職独占というカシケ支配（ボス支配）からの自立・自治を試みる住民に対するカシケ側の準軍事組織による暴力行使が背景にあった。

## 選挙期間中の暴力

今回の選挙がらみの殺人は全国で 94 名とされるが、チアパス州は 22 名と全国 1 位である。マパステペックの 7 人、ラ・コンコルディアの 6 人、ベネメリト・デ・ラス・アメリカスの 2 人とグアテマラ国境に隣接する行政区での殺人が目立っている。また、全国の投票所未設置箇所（222）の約半数（108）をチアパス州が占め、選挙直前の立候補辞退者 515 名は、2 位のサカテカス州の 217 名を大きく上回っている。こうしたことから、選挙期間中のチアパス州が「危険」であったことは明白である。

選挙関係者に向けられた暴力の一つはナルコ勢力からの様々な形の圧力である。そのことは、選挙関係者の殺害や立候補辞退のあった行政区の多くが、海岸地域、国境隣接地域、中央ルート沿いのナルコ勢力の抗争の舞台となっている地域にあることからも自明である。もう一つの背景として、前世紀から続く土地・農地問題や経済的利権をめぐる行政区の住民相互の対立・紛争がある。1994 年のサティスタ蜂起後に農民たちが占拠した大農園の土地の所有権をめぐる紛争だけでなく、1930 年代までさかのぼるエヒードの権利をめぐる紛争もある。

## 政権与党と結託したカシケ支配の継続

カシケ支配が確認できる行政区のうち、もっとも長く特定の一族が行政区役職を独占しているのは北部の先住民チョル居住域にあるティラである。

リンベルク・グティエレス・ゴメスがティラの首長に就任したのは2008年である。その後、今回の選挙まで、彼自身が4期、妻が1期、いとこが1期と、連続して彼の息のかかったPVEMの候補が首長に当選している。4月20日、キャンペーンでティラに来たシェインバウムに対して住民が20年間にわたるカシケ支配の弊害とPVEM候補の押し付けに異議を申し立てていた。

ティラの役場用地のために不法に奪われた土地（130ha）の返還を求めるエヒード・ティラの構成員は、主張が認められた2010年の最高裁決定に基づき、2015年にカシケが牛耳る行政区当局を主邑ティラから追放した。行政区役場はペタルシンゴに移動し、主邑一帯には投票所が設置されず、今回も12カ所が未設置だったが、1990年代の準軍事組織「平和と正義」の指導者の息子がPVEMの首長候補となり、66%の得票率で当選した。

ティラに隣接するヤハロン行政区も、アルフレド・ピント・アギラル一族の役職独占が2008年から始まった。彼自身が3期、妻が1期、PVEM候補として首長に就任した。2021年と2024年は、PVEMが別候補を擁立したため、PES候補として立候補したが10%の得票差で落選した。

チアパス南部高原のアルタミラノやコミタンでは、1994年のサパティスタ蜂起に強硬に対抗した大農園主たちの盟主であるカンテル（Kantel）一族が覇権を競い合ってきた。アルタミラノの場合、アルマンド・ピノ・カンテルとロベル・ピノ・カンテルの一族がPRIとPVEMに分かれ、覇権争奪戦を繰り広げてきた。コミタンの場合、当初はPRIだったホルヘ・コンステンティノ・カンテルが2021/24年はMORENA/PVEM候補として出馬している。

カンテル一族に替わって2012年からPRI候補として4回立候補し2回当選していたマリオ・ギジェン・ドミンゲス（綽名Señor Fox）1）は、2024年は連立与党PTから立候補し、PVEMの候補のカンテル一族に20%の差をつけて勝利している。

PRIからMORENAへの鞍替えだけでなく、現政権与党のMOREN/PVEM/PTの内部の対立を利用しながら、カシケたちは行政区の覇権を確保し続ける。当然ながら、こうしたカシケ支配継続に対する異議申し立てや抵抗も根強く展開している。

4月20日、ティラ首長カシケ支配の苦情を聞くシェインバウム

シェインバウムとのツーショットのマリオ・ギジェン

その一例として、今回選挙が実施できなかったパンテローがある。チアパス高地北東部のパンテローでは、2002~08年に行政区判事を務めたアウストレベルト・エレラ・アバルカがPRDを介して行政区を牛耳る状態が続いていた。2021年選挙でもPRD候補が当選したが、86共同体の住民は選挙無効を訴え、独自の行政区役職者を選出し、ナルコ勢力（CJNG）との癒着が指摘されるロス・エレラ・グループに対抗する自衛組織マチェテが組織された。

ロス・エレラ・グループの攻撃は、行政区内のサパティスタ共同体だけでなく隣接するチェナロー行政区の共同体に対しても絶え間なく続いた。チアパス高地の北西部では8月になって、元サパティスタメンバーだとする人物による新たな自衛組織の結成も報告されている。

## 選挙後も続く暴力状況

選挙後もチアパス地域の暴力状況は改善していない。6月29日には、ラ・コンコルディアのラ・レフォルマでナルコ組織に殺害・放置された20名の死体が発見された。7月下旬には、アマテナンゴ・デラ・フロンテラやマサパ・デ・マデロでの武力衝突により、住民約600名がグアテマラに避難するという初めての事態も起きている。ティラでは選挙直後の6月4日、準軍事組織カルマ（Karma）が主邑を襲撃し17軒と21車両が放火され、3名が殺害され、主邑の住民5千人が避難する事態が起きている。

2019年以降2回慣習選挙が実施されたオシュチュックでは、連邦選挙、州知事・州議会選挙の投票はあったが、行政区首長選挙は実施されていない。また、チコムセロとパンテローでは、8月25日に行政区選挙が予定されていたが、チコムセルコでは実施できたが、パンテローの場合は、安全面の問題から、再度見送りとなった。

注1）チアパ・デ・コルソの祝祭にCDS提供と噂される100万ペソで購入した馬に怪傑ゾロの格好でまたがり登場したのでついた綽名

# シナロアの大ボス、エル・マヨ逮捕とシナロアの謎　山本 昭代

7 月 25 日、日本時間では 26 日、メキシコ最大の麻薬密輸カルテルのひとつシナロア・カルテルの大ボス、「エル・マヨ」ことイスマエル・サンバダ（76 歳）が、米国テキサス州のエルパソ郊外の小さな民営の空港で逮捕されたというニュースが流れた。

シナロア・カルテルの共同創設者で、現在は米国で終身刑を受けて服役している「エル・チャポ」ことホアキン・グスマン・ロエラの息子、ホアキン・グスマン・ロペス（38 歳）が一緒だった。

米国政府がかけていた懸賞金は、サンバダは 1,500 万ドル、グスマン・ロペスは 500 万ドル。それだけを見ても、世界でも最大レベルの重犯罪者と目されていたことがわかる。いずれも、コカイン・覚せい剤だけでなく、近年米国で多数の死者を出して問題になっているフェンタニルを大量に密輸している責任者として、米国政府が厳しく追及していたターゲットだった。

米国政府のサンバダの懸賞金ポスター
出典：https://zetatijuana.com/2024/07/

メキシコでは、軍も警察も一切関知しておらず、ニュースはロペス・オブラドール大統領にとってもまさに寝耳に水だった。それほど思いがけない大事件であったわりに大々的な報道がされなかったのは、華々しいオリンピックの連日のニュースの影に隠れたせいばかりではない。

逮捕に至る状況が不透明すぎて、この先の裁判で新たな証言が出てこないことにはわからないことが多すぎるからかもしれない。

イスマエル・サンバダ（左）とグスマン・ロペス（右）
出典：https://zetatijuana.com/2024/07/

**自首か誘拐か?**

当初のニュースでは、グスマン・ロペスがサンバダを騙し、国境近くの物件を見ようと誘って飛行機に乗せ、メキシコ領内と見せかけて、実は米国領内の空港に降りた、という話だった。日本人の中には、その昔（1970 年）の「よど号事件」を連想した人もいただろう〔実際に着陸した韓国の金浦空港を北朝鮮の平壌空港に偽装〕。

しかし情報は錯綜し、じつはこれは自首で、サンバダらは数年前からアメリカ当局と交渉をしていたのだ、という話が出たり、サンバダが名付け子であるグスマン・ロペスを一緒に自首するよう誘ったのだという説も出たり。

しかし背景には、シナロア・カルテル内部の激しい分裂抗争がある。エル・チャポの息子たち「チャピートス」らと、エル・マヨが率いるグループは、何年も前から激烈な復讐合戦を繰り返しているのだ。宿敵のボス同士が、何をどう言いくるめたかにせよ、2 人で一緒に飛行機に乗るということがありえるだろうか?

真実味があるのは、サンバダの弁護士が語った話である。エル・マヨはチャポの息子に騙されて誘い出されたというのだ。待ち伏せされ、軍服を着た男 6 人に地面にねじ伏せられ、手錠をかけられ、頭に黒い袋を被せられ、無理やりセスナ機に乗せられた。エル・マヨは座席に縛り付けられ、セスナは、グスマン・ロペスとパイロットの 3 人だけで飛び立ったという。

メキシコ人ジャーナリスト、フアン・アルベルト・セディージョとイギリス人のヨアン・グリロ（『メキシコ麻薬戦争：アメリカ大陸を引き裂く「犯罪者」

たちの反乱』2014 年、現代企画室、の著者）が、エル・マヨ側の情報筋から得たという生々しい情報が、その話を裏付けている。

前シナロア自治大学学長（2005～09 年）で今年 6 月の選挙で PAN/PRI/PRD 候補として下院議員に当選したエクトル・メレシオ・クエンが、シナロア州知事ロチャ・モヤと数年来対立しているのを仲裁してほしい、と長年の友人であるサンバダに頼んできたというのだ。

元シナロア自治大学学長（1993～97 年）でもあるロチャは、チャピートスの資金で、2021 年に MORENA とシナロア党の候補〔クエンが 2012 年創設〕として州知事に当選していたとされる。ロチャとクエンの対立は、チャピートスとエル・マヨの対立に重なる。

そこで、ロチャ側の代理人としてグスマン・ロペスが来ることになり、サンバダと会合が持たれることになったという。サンバダは高齢なうえ、がんを患っており、数年前から組織の指揮は息子の「マイート・フラコ（マヨの痩せた息子）」ことイスマエル・サンバダ・シカリオスに譲っている。

それでも常に情報は得ており、なにかにつけ相談を受けるという立場だった。エル・マヨはその日、4 人のボディーガードだけを連れて約束の場所に赴いたが、グスマン・ロペスとそのガンマンたちにいきなり襲撃されたというのだ。

その後の話は、サンバダの弁護士の話と重なっている。セディージョらの報道によると、エル・マヨ襲撃の現場にアメリカ人の覆面捜査官が居合わせていた、という。アメリカ当局がシナロア・カルテル内部の分裂を利用して、誘拐劇を仕立てていた可能性がある。

これが問題をややこしくしているようだ。メキシコ領内で米国当局者が活動していたとなると、国家の主権問題にもなりかねない。それを隠すために当初、「グスマン・ロペスがエル・マヨをだまして飛行機に乗せた」という説を流させたのかもしれない。

一方、下院議員に当選したクエンは、エル・マヨ逮捕と同じ日に、道路を自家用車で走行中にバイクの 2 人組に銃撃されて殺害された。まさにナルコスタイルの殺人。警察当局がすぐさま「強盗未遂による殺人」と発表したことも、カルテルの支配下のシナロアならではだ。

シナロア州やドゥランゴ州など、シナロア・カルテルが支配する地域では、それ以来、チャピート派とエル・マヨ派の抗争がいつ勃発するかと、不穏な緊張感に包まれたが、記事を書いている 8 月初めの時点では、目立った殺人事件はほかには起きていない。両派の間で何らかの手打ちがあったのか、それともまだ嵐の前の静けさなのか。

**クリアカンの大量拉致事件**

真実がどこにあるのか、誰の言うことが信用できるのか?　メキシコでもとくにシナロア州のようなカルテルがすべてを支配している地域では、新聞やテレビ、ましてや知事の発表などは当てにならないということを地元の人たちはよく知っている。

なにか事が起きたときの緊急情報は、ワッツアップや独立系のネット新聞などから得ているようだ。地元の人たちは、自分たちのあずかり知らぬ、組織のボスたちの間のトラブルで、街が突然、火の海になったり、流れ弾が家に飛び込んできたりという経験をしている。

シナロアの人たちのそんな経験の一端を 2024 年 3 月、私もたまたま実体験することになってしまった。ロス・モチスの「フエルテの追跡する女たちの会」代表のミルナ・メディーナさんに、州都クリアカンの行方不明者の家族グループのメンバーのマルタ・ベガさんを紹介してもらい、クリアカンでの彼女たちの捜索活動に同行させてもらったのだ。

3 月 22 日金曜日。その日は遺体発掘ではなく、薬物中毒者のリハビリ・センターを訪れ、入所者から行方不明者に関する情報を得ようという予定だった。麻薬中毒者のなかには犯罪組織に関わっていた人もいるからだ。そのようなリハビリ・センターはクリアカンの行政区内にいくつもあるといい、麻薬密輸組織の足元での深刻な薬物依存問題がうかがえた。

クリアカンの行方不明者家族の会メンバー。中央がマルタ・ベガさん

朝8時半、郊外の大型スーパーの駐車場に10人余りの参加者が集合した。全員が女性。行方不明者捜索を担当する州政府の「捜索委員会」メンバーが運転するマイクロバスに乗ると、重装備の国家警備隊の護衛も付いていた。それほど危険な場所に行くのか?

リハビリ・センターに行く前に、郊外の集落で、電柱に行方不明者の写真の入ったポスターを張り付けて回った。地味な活動だが、写真を見て電話をかけてくれる人もいるのだ。カラフルな花があちこちに咲き、通りは清潔で、壁に落書きも見えず、公園では幼稚園児を遊ばせる母親の姿も。

ごく普通の労働者階級が暮らす住宅街だったが、そこは組織が支配する危険地帯だという。「アルコン(鷹=見張り)は、家の窓から見ているのよ」と、参加者のひとりが教えてくれた。

張り紙がほぼ終わりかけたころ、国家警備隊の一部が「緊急事態が生じた」と、私たちを置いて急遽どこかに行ってしまった。何が起きたのかわからず、あっけに取られていると、スマホを見ていた行方不明者家族の女性たちの間でざわめきが起こり、その後の予定はキャンセルとなって、急いで帰宅することに。

私もスマホで検索してみると、クリアカン市内の各地で、武装グループが家族全員を拉致していくという事件が、同時多発的に起きている、というニュースが。われわれがさっきまでいた町でも、夜明け前に一家族が拉致されていたという。あの静けさは何だったのか? 送迎のマイクロバスの中では、小さい子どもがいる女性が携帯で、「皆、すぐに家に入ってドアと窓を閉めていなさい」と、緊張した声で話していた。

ニュースを見ると、拉致された家族は4家族 15人と言ったり、11家族39人と言ったり。メディアによっては、50人とも。いずれも、3歳や5歳の小さい子どもも含めて、家に居合わせた家族全員が連行されて行ったというのが共通していた。

やり方はまさにナルコスタイル。武装集団がいきなり家のドアを蹴破り、家じゅうをかき回し、問答無用で引き立てて行ったという。シナロア・カルテルは、「女性や子どもには手を出さない」というのをモットーにしてきたとされていたが、昔話に過ぎないようだ。

国家警備隊の護衛のもと、電柱に行方不明者の写真入りポスターを張っていく

州知事の記者会見がニュースに流れていた。ロチャ知事は、拉致されたのは4家族15人だと言い、「残念ながらそういうことは起こるものだ」、「市民は怖がらないで、聖週間のバカンスに出かけてほしい」などと。

犯罪組織に実質支配された州というのは、そういうものかと、改めて実感させられる発言だ。しかし、マイクロバスに乗っている間にも、ネットニュースで報じる被害家族と人数はどんどん増え、シナロア州の公安当局も被害者数を何度も訂正した。

捜索委員会のマイクロバスが市内に入ったとき、車内のメンバーが「あっ」と声を上げた。無線機を口にくわえた若者が乗ったバイクが、赤信号で停車していたマイクロバスの前を横切り、歩道に乗り上げて、走り去って行くのが見えた。「アルコンだ。私たちをつけていたのよ」。組織にはどんな些細な情報も筒抜けというわけなのだ。

州捜索委員会メンバーと家族会のミーティング

## あなたは行けるけれど

22 日昼過ぎには、中心街のマルタさんの自宅にほかのメンバー数人と一緒に到着した。私としては、危険地帯と化したクリアカンを一刻も早く脱出したくてソワソワしていたが、この街に生まれて 70 数年暮らし、50 年前に政治がらみで行方不明になった夫の捜索を続け、たたかい続けてきたマルタさんは落ち着いたもの。

2019 年のクリアカナッソと呼ばれる事件では、エル・チャポの息子のひとりオビディオが当局に拘束され、その奪回のためにシナロア・カルテルの軍勢が街を包囲した〔AMLO 政権の指示で当局はオビディオを釈放〕。マルタさんの家でも銃撃戦の音が聞こえたという。70 代の兄がクリニックに行ったところで銃撃戦が始まってしまい、タクシーもウーバーも来なくて家に帰れない、と携帯で助けを呼んできたので、マルタさんは車で救出に向かったという。見かけは上品な老婦人という風情だが、じつに肝が据わった女性なのだ。

マルタさんが用意してくれた美味しい魚料理をいただき、一緒に来たメンバーにインタビューさせてもらった。クリアカンでは、ここ数年状況が悪化しており、行方不明者も増えているという。「もう 1 泊して行ったら」というマルタさんに丁重にお礼を言い、ロス・モチスに行くためにバスターミナルまで車で送ってもらった。

別れ際、マルタさんが言った「あなたは行ける。でも私たちはここに残らなければならないのよ」という言葉が胸に響いた。われわれ、よそから来たものは、いつでもすぐに逃げて帰れる。しかし地元で暮らす人には日々の生活がある。逃げられない人々のために、私は何ができるのか。このことをつねに自問しなければならない。

## シナロアの謎

事件翌日の 23 日、最終的に集団拉致にあったのは 66 人と発表された。組織的に計画立てて遂行された事件である。拉致された人たちは、その朝から徐々に解放され始め、23 日午後の時点で 42 人が解放されていた。誰が、何のためにこのような大掛かりな事件を起こしたのか? しかし被害者らはみな口を閉ざし、被害届けも出したがらなかったため、事件の捜索は困難を極めた。最終的には、3 か月後の今年 7 月、最後まで行方が知れなかった女性 2 人が発見され、拉致被害者は全員生還した。事件に関連して 13 人が殺害されたというが、拉致被害の届けが出されておらず、どのような状況で殺害されたのかもなにも報道がない。

集団拉致事件の背景ははっきりしないままだ。知事の発表、ジャーナリストらの様々な説、首謀者とされるチャピートスのリーダー、イバン・アルチバルド・グスマンの署名入りの「ナルコマンタ」(犯罪組織の主張を布などに書き公共の場所に吊るす横断幕)に書いたことなど、どれが真相かわからない。

明らかになったのは、シナロア内部でも、チャピートスとエル・マヨのグループが敵対しているだけでなく、収監中のチャポ・グスマン・ロエラの兄の「エル・グアノ」ことアウレリアノ・グスマン・ロエラが、実の甥たちのチャピートスと対立し、三つ巴で主導権争いをしているらしいということだった。

州政府も地元マスコミも、ボスたちが許容した、あるいは流したいと思う情報しか流せない。それ以上の情報を書いてしまった仕事熱心なジャーナリストは、ここでは生きておれないというのがシナロアの掟である。

## 何も変わらない

エル・マヨ逮捕のニュースが流れた当日、メキシコの週刊誌『プロセソ』は、同誌創設者で高名なジャーナリストだった故フリオ・シェレル・ガルシアが 2010 年にマヨ・サンバダにしたインタビュー記事を再掲した。エル・マヨはかつての盟友のエル・チャポと違って非常に用心深く、マスコミの取材に応じた唯一のものだった。そのなかでエル・マヨは次のように語っている。

「私が当局に降伏して銃殺されたら、みな大喜びするだろう。しかしすぐに何も変わらないことに気づくだろう。…ボスを逮捕したり、殺したり、アメリカに移送したりしても、その代わりはいくらでもいる。…麻薬密輸は汚職と同じように、社会に根付いているのだ」

エル・マヨ逮捕の経緯がどうであれ、密輸もその周辺の犯罪も、汚職や貧困という社会の問題が存在するかぎり、容易になくなるものではない。次のより凶暴で洗練された世代が表舞台に出てくるきっかけになったにすぎないといえるかもしれない。

# コロンビア紛争被害者が多国籍バナナ企業に勝訴　柴田　大輔

2024 年 6 月、米国フロリダ州の南部地方裁判所は、コロンビアで右派準軍事組織・コロンビア自警団連合（AUC）による市民殺害について、多国籍バナナ企業「チキータ・ブランド」の AUC への資金提供に責任があるとして、原告である親族を AUC に殺害された遺族 8 人に対して総額 3,830 万ドルを賠償するようチキータ社に命じた。

今回の判決では、同社が提供した資金が、武力紛争に関する犯罪の中でも、殺人、誘拐、恐喝、拷問、強制失踪などの戦争犯罪に使われたと認めた。チキータ社による「企業が経済活動をする際に、その活動地域を支配する非合法武装組織への資金提供が、武装組織からの脅迫によるもので、企業や労働者への差し迫った脅威の結果」であったという主張が退けられた。

AUC は、1997 年 に反共産ゲリラの武装組織として農場主など富裕層の保護を目的に誕生した非合法武装組織の連合体で、1990 年代から 2000 年代にかけて全国で約数万人の死者に関与したとされている。米国は 2001 年に AUC を外国テロ組織として指定したことで、指定組織への支援が連邦犯罪となり今回の裁判が成立した。

原告代理人の 1 人で、国際人権 NGO アースライツ・インターナショナル顧問弁護士のマルコ・シモンズ氏は、「この判決は、人権を犠牲にして利益を得ている世界中の企業に強いメッセージを送るものである。武装集団や企業の犠牲者である遺族が自らの力を主張し、司法の場で勝利を収めた」とコメントを出している。また、アースライツ・インターナショナルは、「米国の陪審が、他国での深刻な人権侵害に加担した米国の大企業の責任を初めて認めたものであり、正義のための画期的な出来事」だと強調した。

## 経緯

米国オハイオ州シンシナティを拠点とするチキータ社は、1997 年から 2004 年にかけて、米国にテロ組織指定されている武装組織 AUC に 100 回以上に渡り合計 170 万ドルを支払っていたとして、2007 年に米国から 2,500 万ドルの罰金が言い渡されていた。これ以前には、コロンビア革命軍 FARC や民族解放軍 ELN といった左派ゲリラへも資金提供していたことを認めたが、当時はゲリラ集団が

バナナを主食にするコロンビアの人々

バナナを収穫するコロンビアの男性

テロ組織として米国に認定されていなかったため訴追の対象とはならなかった。

今回の裁判で、AUC への資金提供について、同社は、コロンビア北部ウラバにある同社所有のバナナ農場とそこで働く労働者とその家族をゲリラの攻撃から「保護」する名目で AUC から資金提供を強要されていたとし、同社が AUC の脅迫の被害者であったと主張していた。

一方で、支払い期間が長期にわたっていることや、同社と AUC の幹部同士の長期にわたる関係などから、原告は「チキータ社は AUC が支配していることを理解し、事業継続を決定し、最も紛争が激しく暴力的な地域の一つで同社は繁栄し、国際的に最も収益性の高い事業を成功させた」と主張した。

アースライツ・インターナショナルによれば、犠牲者の総数は 3,000 人以上とされ、他の原告による裁判が続く。

チキータ社は、複数のバナナ関連企業が合併し 1899 年に「ユナイテッド・フルーツ社」として誕生し、20 世紀半ばにかけて中米、コロンビア、西インド諸島などで同社に反する政府の転覆を図るなど強い影響力を発揮し、現地政府を支配する様子から「バナナ共和国」という言葉を生み出した。1928 年にコロンビアで起きたバナナ農場労働者のストライキでは、軍の鎮圧で数十人から数千人といわれる多数の犠牲者が出た。ユナイテッド・フルーツ社のために軍が行動したと非難されている。

バナナの葉を傘がわりに雨の中を歩くコロンビアの母子

# 2024 年、INTAG 最高裁で勝訴

一井　リツ子

南米エクアドル、アンデス山脈の裾野に位置するインバブラ県コタカチ郡インタグ地方。首都キトから車で２・３時間ほどの世界的にも貴重な自然に恵まれるこの土地で、度重なる鉱山開発の危機が繰り返され、すでに 30 年ほどの年月が流れた。

## 鉱山開発危機の歴史

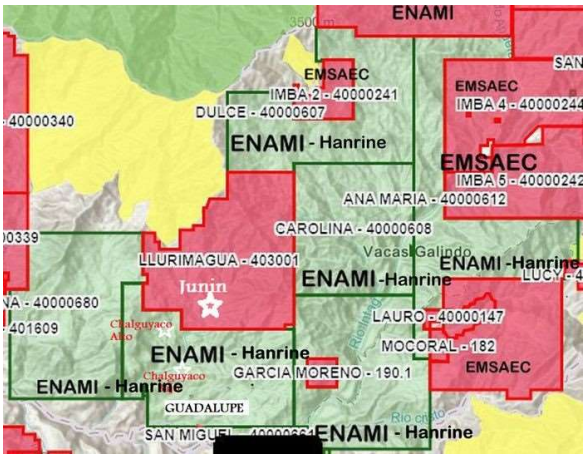
まず 1990 年代には、日本の JICA の委託を受けた三菱マテリアルによる試掘によって水質汚染が起こった。麓のフニン（Junin）村では、川で泳いだ子供に皮膚病の発症、家畜の牛が死ぬなどの事態が発生した。

そこで初めて、鉱山開発によって何が引き起こされるかを知った住民らは、望まない開発に抵抗するため、環境保全団体「インタグの生態系の防御と保全」（DECOIN）を立ち上げ、国際的な鉱山開発反対キャンペーンなども行い、この企業を撤退に追い込んだ。

その後も 2004 年からは、カナダのアセンダント・コッパー社（Ascendant Copper、現在 Copper Mesa 社）による民兵によって、銃の発砲や催涙ガスを使用するなど暴力や脅迫行為が横行した。しかし、これも同様に住民らの必死の抵抗によって開発は中止となり、カナダの証券取引所に調査を依頼し、この企業の虚偽を暴いて上場廃止へ持ち込んだという経緯がある。

そしてこの 2 度目の住民側勝利の後にも、2011 年には探鉱計画正式合意が結ばれ、エクアドル鉱山開発公社（ENAMI）とチリ公営銅開発公社（CODELCO）の合弁事業として、ジュリマグア（Llurimagua）鉱山開発プロジェクトが強引に推し進められようとしてきた。

その時はエクアドル国家そのものの開発である上、抵抗の強い住民らへ強力な圧力がかけられてきた。2014 年 4 月には当時フニン村村長であったハビエル･ラミレス（Javier Ramírez）さんが、企業とのいざこざに関わったという事実をでっち上げられ、国家反逆罪･テロリズムという罪状で、




ハンライン社のジュリマグア周辺のコンセション

10 か月間も不当逮捕拘留された。彼の父親も以前の開発危機の際、銃の発砲によって殺害されている。

2015 年には、このフニン村へ約 400 名の企業や警察隊の強行突入が行われ、その後半年間も一部の警官によって村は占拠され、住民の監視が続けられていた。このような非情な人権侵害が横行する中でも、住民らは諦めることなく、破壊型ではない森と共存する生産形態を模索し、法的闘争を続けてきた。

またコタカチ郡は、鉱山開発の脅威に対する返答として、2018 年にインタグ全域を「生命の聖地」とする法案を提出した。その結果、鉱山を拒否し、その持続的使用と保護区域などの郡条例が承認されている。

## 「自然の権利」訴訟

そんな中 2023 年 3 月にインバブラ高等裁判所は、ENAMI と CODELCO の国営企業 2 社の関わる 30 億米ドル級の鉱山計画に対して、環境許可を取り消す判決を下した。この鉱区では世界ですでに絶滅したと思われていた数種のカエルも発見されていて、エクアドル憲法に明記されている「母なる自然の権利」に基づき、絶滅危惧種の生存権を脅かす鉱山計画は認められないという歴史的な判決が出された。

そして今年 2024 年 4 月 23 日、エクアドルの最高

裁判所にあたる憲法裁判所も、インバブラ高裁の判決を支持し、鉱山会社らによる控訴を却下し、鉱山計画再開を認めない判決を下した。そのため、鉱山会社らが再度環境許可を取得するにあたっては、精密な現地調査や現地住民の承認を含んだ環境影響評価を一からやり直し、まったく新しい開発許可を申請する必要があるという。最高裁判所判決であるため、まさにこの計画は完全に白紙に戻されることになり、3 度目の勝利となった。

**新たな脅威**

しかし安堵する間もなく新たな脅威が発生している。DECOIN 創始者カルロス・ソリージャ（Carlos Zorilla）氏は SNS で次のように述べている。

「そして今度はオーストラリアのハンライン（Hanrine Exploration & Mining）社である。ハンライン社は、オーストラリアのハンコック・プロスペクティング（Hancock Prospecting）のエクアドルの子会社である。最近、彼らは、ジュリマグア鉱区のすぐ近くにある合計 28,000 ヘクタール（70,000 エーカー）以上の隣接する 6 鉱区で探鉱する権利を ENAMI と契約した。この契約は CODELCO によって法廷で争われている。ハンライン社の最終目的はジュリマグアの採掘である」

**Hancock Prospecting とは何者か？**

この企業は、オーストラリアでもっとも裕福な女性ジーナ・ラインハート（Gina Rinehart）が所有する民間鉱山会社で、資産は 300 億米ドルを超える。ハンライン社は、インバブラ県北部のブエノスアイレス地域という金の違法鉱山業者に浸食された極めて暴力的な地域で、採掘を行っている。

この企業は人権と自然の権利を侵害し、絶滅の危機に瀕する多くの種を危険にさらす可能性がもっとも高い。

残念ながら、私達は両方のシナリオに備えなければならない。ハンライン社は猛烈に自分達の採掘権にアクセスしようとし、CODELCO はどうにかして（賄賂で？）彼らのすべての法的問題を解決し、ジュリマグアの原生林での探査を再開しようとする。

私は 2013 年にこの地を旅行者として訪れ、すでに 10 年以上この問題に関わることとなり、最高裁での勝利は本当に心から嬉しいものであった。しかし次から次へと繰り返されるこのような鉱物略奪戦は、世界中で起きている資源獲得の残酷なリアルを見ているようで、言葉がない。

今年 3 月、ダニエル・ノボア（Daniel Noboa）大統領は、カナダのトロントで開催された世界最大の鉱業見本市であるカナダ探鉱開発者協会（PDAC）の年次総会に、エクアドル大統領として初めて参加した。エクアドル国家と投資家が鉱業セクターのプロジェクトを開発するという相互の利益を正式に表明することが目的で、6 つの投資協定が調印され、48 億米ドルの投資を得ることが決まっている。

ノボア大統領は演説を行い、鉱山会社の取締役や投資家の前で、エクアドル政府が鉱業部門を経済の最優先事項とみなしていることを保障し、国と投資家との紛争解決メカニズムの創設など鉱業への投資を誘致するために採用している改革について発表した。

一方、キトでは、3 月 4 日、カナダ大使館付近で鉱業のフロンティアを前進させる政府の意図に反対して、社会・環境団体が抗議活動を行っている。

ブエノスアイレスの違法金採掘現場

2024 年カナダでの PDAC 年次総会でのノボア大統領

音楽三昧　ペルーな日々　第85回　　水口　良樹

# ラテンアメリカにおけるフェミニズムをめぐる歌の旅(5)

2024年8月3日にラテンアメリカ探訪200回を記念して立命館大学国際言語文化研究所ジェンダー研究会と共催で「日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム」と題した国際シンポジウムをすることになった（この会報が出る頃にはもう終わっていますね）。そのため、改めていろいろこうした問題を考えている。学生にこういうイベントをする、と話したりしたときには、反応が二つに分かれる。一つは、自分事としてその問題を重要な実践と感じるスタンス。そしてもう一つは、フェミニズム自体を炎上するヒステリックな集団と冷笑する文脈を通して見る視点だ。これは、いろいろ勉強をしている学生かどうかとは関係なくスタンスが分かれるようなのが興味深い。

ぜひそうした距離を置いて「他人事」と感じている人にこそ、フェミニズムという運動と思想について知って欲しいと思っている。それが「いないことにされている/されていたひとたち」が経験してきたたくさんの痛み/抑圧/搾取をないことにしようとする力に対して、「NO！」と声を上げて可視化する、そういうものなのだということを知って欲しいし、同時に自分自身が加害者として、また被害者として、どちら側からもそうした痛みを考えることができるということに気づくことで、より生きやすい社会の実現を一緒に作っていける仲間になっていって欲しいと願っている。

そんなわけで今回は男性側がどのようにこの女性解放を目指す運動に歌でコミットしていったのかということに注目して曲を紹介して行けたらと思う。

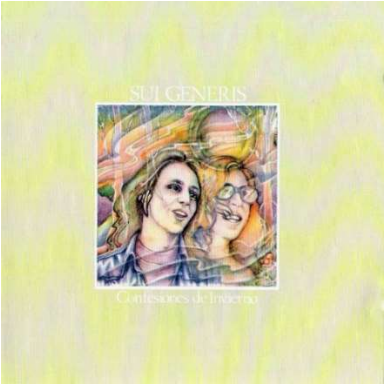
まず、女性の差別、暴力、疎外といったものに寄り添った曲として思いつくものとして挙げるとすると、コロンビアのサルサバンドとして超有名であるグルーポ・ニーチェの名曲「アナ・ミレ Ana Mile」だろう。1985年のアルバム『勝利 Triunfo』に収められている。この曲を初めて知ったのは、私もメンバーの一人であるラテン音楽 web マガジン eLPop のイベント「エロポップ」というラテンのお色気曲を聴こうという企画の時だ。コロンビア担当の山口元一さんがラテンの現実という意味で紹介してくださっており衝撃を受けたのだった。

Grupo Niche
Triunfo 1985年

この曲は、パーティのダンスバンドが、まさに一番盛り上がっているときに、今楽しく踊っている男とちょっといい関係になって、もし子どもができちゃったりしても、男は責任取ってくれるの？きちんとそこまで考えるんだよということを、やり捨てされ、妊娠によってすべての人生のプランを壊されて絶望する若い女性の嘆きに寄り添う形で問いかける。これ、バンドとしてそうとう攻めていないとできない。

この曲を聴いたとき、私はコロンビアの貧困層の高校生で妊娠出産したシングルマザーの聞き取り調査の研究を思い出した。皆、そうしたリスクは知っていた。でも自分に降りかかるとは思ってはいなかった。その結果、階段を踏み外し、男性だけがとんずらこいて、女性はキャリアをリタイアし、貧困の再生産のサイクルに落ち込んでいくのである。だからこそ、グルーポ・ニーチェのこの曲は、非常に大きなインパクトを持ったのではないだろうか。

そしてもう一曲、アルゼンチンで1973年に発表されたスイ・ジェネリスのアルバム『冬の告白 Confeciones de invierno』の「嘘を造る人 Fabricante de Mentiras」も少し近い文脈を感じる作品だ。この曲は、アルゼンチン・ロックを研究していた郭アテイさんの論文で知った。スイ・ジェネリスは、アルゼンチン・ロックの神さま的存在といってもいいチャーリー・ガルシアが 70 年代に率いていたバンドである。




Sui Generis
Confeciones de invierno 1973 年

当時、ロックが中産階級男性むけの音楽であった時、スイ・ジェネリスは若い女性ファンが多くいるバンドとして少し他のバンドと一線を画していた。その理由が、彼らの楽曲が既成の「伝統的女性像」に対する違和感とそこから解放される女性像を描いた当時としては数少ないバンドであったからだという。もちろん、フォルクローレの文脈ではメルセデス・ソーサがすでに『アルゼンチンの女たち』を発表したりもしているので、そういう社会をケアする隠れた存在としての女性ではない、主役として変革に参与できる存在としての女性という意識が少しずつ市民社会には醸成されていたのだろう。それに対して、スイ・ジェネリスはいち早くコミットしていったと言えるのかも知れない。

「嘘を造る人」でも、無垢な女学生が、遊び人の男にやり捨てられる。周りはそれをとがめる中、彼女はその境遇を泣かずに笑ったという。その理由を周りは誰も理解できなかった。歌はその状況のみを提示して終わる。その物語の解釈は聞き手に委ねられる。郭は、そこに伝統的な悲しむ女性像を打破する新しい女性の到来を見ている。私自身は、まだこの問いに答えを出せないでいる。

現代の曲も紹介しよう。マチスモが特に強く前面に出ているラップ音楽レゲトンのスーパースターの一人、バッド・バニーは、かねてからフェミニズムやクィア（性的マイノリティ）にコミットした曲を発表し、またトランスジェンダーな衣装を採用するなどして、他のレゲトン歌手とは大きく違うことを印象づけている。中でも 2022 年のアルバム『お前のいない夏 Un verano sin ti』の「アンドレア Andrea」は、女性であるために発言を封じられ、常に劣位に置かれ、何か行動しようとすると、制度を揺るがす者として攻撃される女性の位置を暴いている。その意味で彼は制度として女性が差別され、

Bad Bunny
Un verano sin ti
2022 年

ホモフォビアやトランスフォビアが吹き荒れる状況に対して明確に NO を言っているというイメージが非常に強い。しかし、同時に彼は同じアルバムの中でいわゆるレゲトン的な女性を値踏みし、容姿を求め、性的対象として消費する曲を歌ってもいる。

そう考えると、バッド・バニーのポジションはどこにあるのか、ということが気になってくる。果たしてそれはポーズに過ぎないのか。それともマチスモ的レゲトンの方がポーズなのか。これは非常に判断が難しい部分でもある。しかし、「その両方ともが」バッド・バニーの本心である可能性もあるのではないか、とも思う。人はそんなに一貫した生き物ではない。常に分裂し、支離滅裂に人生を生きているともいえる。その意味で、二つの世界の境界を行きつ戻りつしながら、その両者に架橋し、自らもふくめて少しずつ社会の弱い人たちを消費し支配するのではなく、互いの尊厳に敬意が払われる社会の存在の可能性に慣れるための入り口なるような、そういう道を知らずに作っているのかも知れないと思ったりもする。まあ、レゲトンに疎い私なので、もしかしたらとんでもなく頓珍漢なことを言っているかも知れない。その時は笑って、あとからそっと教えてもらえたら嬉しい。

日本は今、クィアにしてもフェミニズムにしてもバックラッシュの時代となっている。同時に、こうした問題の必要性は徐々に当事者間で自覚され始めているともいえる。しかし、まだまだ私たちが見ている世界は狭い。共によりよい社会を作るための方法を、地べたから少しずつ作っていく道をみんなで探していければと思う。

冒頭で紹介したシンポジウムも冊子として出版企画があるので、もしご賛同いただける方がおられましたら、ぜひ寄付の方よろしくお願いいたします。

**問い合わせは** hijikata@kt.rim.or.jp **まで**

ラ米百景　第90回　　伊高 浩昭（ジャーナリスト）

# 墨都の旧スペイン共和国大使館が歴史記念物に

墨都メキシコ市のレフォルマ遊歩道とインスルヘンテス大通りが交差する「クアウテモク」ロータリーの近く、ロンドレス通り7番地、ローマ通りとの角に、スペイン共和国大使館があった。スペイン内戦（1936~1939年）が勃発、フランコ反乱軍のファシスト政権が共和政府を蹂躙すると、ラサロ・カルデナス大統領（1895~1970年）のメキシコはフランコ体制を認めず、共和国スペインの亡命政府を承認、墨都の大使館を維持し保護した。

カルデナスはシナイア、イパネマ、メキシク、ニアッサの汽船4隻を相次いでチャーターし地中海に派遣、共和派市民2万人をメキシコに迎え入れた。最初のシナイア号がベラクルース港に到着したのは、内戦終結から2ヶ月半経った1939年6月13日だった。上陸した人々は「私たち共和派スペイン人は、この新天地で生き返った」と感涙にむせんだ。

カルデナス大統領は、「メキシコは彼らを遭難者として救助したのではない。国際全体主義の陰謀に加担した抑圧者に対し戦う共和民主主義の百戦錬磨の防衛者として迎えたのだ」と宣言した。内戦期にメキシコの知識人ダニエル・コシーオ=ビジェガス（1898~1976年）はリスボンやパリで外交官を務めていたが、共和派知識人に亡命を呼び掛けるべきだとカルデナスに進言。大統領は亡命者受け入れに全力を注ぐ。

既に実績はあった。1937年6月7日、仏船メキシク号で456人の内戦孤児がベラクルース港に着いていた。カルデナス大統領の妻アマリア・ソロールサノらが組織した「スペイン人児童支援委員会」が、バルセローナに本部のあった「スペイン人支援イベロアメリカ委員会」に呼応して、カルデナス家の本拠であるミチョアカン州都モレリアに孤児を受け入れたのだ。当時存続していた共和国政府のマヌエル・アサーニャ大統領にカルデナスは児童たちが無事到着した旨を電報で伝え、アサーニャは礼電を返している。

「モレリアの児童たち」の歴史用語で知られる子どもたちも2万人の亡命市民もフランコ支配と第2次世界大戦勃発で帰国できなくなり、多くはメキシコで生涯を終えた。

シナイア号到着の85周年記念日の2024年6月13日、墨都のスペイン大使公邸、旧共和国大使館、メキシコ市庁で式典が催された。カルデナス大統領の長男で、上院議員、ミチョアカン州知事、民主革命党（PRD）党首、メキシコ市長を歴任したクアウテモク・カルデナス（90歳）、アリシア・バルセナ外相ら、スペインからはアンヘル・トーレス地方政策・民主的記憶相、ソライダ・イホーサ同省犠牲者対応・記憶促進局長が出席した。

トーレスはペドロ・サンチェス首相のスペイン政府を代表して挨拶した。これは内戦終結後85年にして初めての在墨亡命社会に対するスペイン政府による公式のオメナヘ（表敬）の儀式となった。メキシコ亡命者5,030人が新たに「内戦犠牲者名簿」に加えられた。同相は「亡命はスペインにとり大変な才能の喪失だった」として、詩人レオン・フェリーペ、哲学者マリーア・サンブラーノらメキシコで活躍した知識人の名を挙げた。

クアウテモク・カルデナスは、共和派亡命者が大学院大学コレヒオ・デ・メヒコや出版社カサ・デ・エスパーニャを創設するなどメキシコ文化を豊かにした事実を讃えるとともに、「スペインに歴史的真実が行き渡るまでに長い歳月がかかった」と感慨を吐露した。

この日スペイン政府は、墨都のアテネオ・エスパニョール（スペイン学芸協会）を、同国初の在外記憶記念物に指定。マルティ・バトゥレス墨都市長は旧共和国大使館を市の歴史記念物に指定すると発表した。

この旧大使館の近くには、私の駐墨ラ米取材記者時代（1967~1975年）の支局があった。1931年4月14日のスペイン第2共和国発足を記念する毎年のこの日、私は祝宴に招かれ、亡命社会の名士たちと知己になった。その縁でパリにあった共和国亡命政府とバスク亡命政府のそれぞれの首班に会い、フランス南部の聖域に行き、フランコ体制と戦っていた武闘正義派地下結社「バスク国と自由」（ETA）の幹部にスリルに富んだインタビューをすることになる。その後1977年3月、ホセ・ロペス=ポルティージョ墨大統領が、民主化されたスペインを承認。共和国大使館は役割を終え閉鎖された。

# ムネチャンのLA情報拾い読み･斜め読み　（2024年5月）

小林　致広

## （1）ボリビアの政治危機の経済的背景

エボ･モラレス再選反対という発言で解任されたスニガ将軍は、6月26日、兵士たちを指揮し、装甲車で政府宮殿に突入しようとした。3時間後に拘束された元将軍は、ルイス・アルセ大統領から大統領の低人気を改善するため「何らかの行動」を起こすよう依頼されたと告白した。この「自作自演のクーデター未遂」事件は、政権与党の社会主義運動MAS内におけるモラレス前大統領とアルセ現大統領との闘争を反映したものである。大統領任期は2期までとされているが、3期（2006~19年）務めたモラレスは、2025年の大統領選挙にMAS候補として出馬しようとしている。

現在のボリビア政治の不安定さをもたらした要因の一つは経済問題である。2006年に政権に就いたモラレスは天然ガス開発を国有化し、天然ガス輸出による多額の収入はガソリン燃料などの補助金に使われていた。その後、天然ガス生産の水準低下を招き、ボリビアはエネルギーの純輸出国から純輸入国となり、天然ガス輸出によるドル収入も減少した。2014年以降、燃料補助金やその他の社会プログラムは、国内外からの借り入れによって賄われることになる。外貨準備は大幅に減少し、現在の外貨準備高は約18億ドルで、10年前の約10分の1となった。ほとんどは金であり流動性がなくドル不足が憂慮されている。消費・生産財の大部分は輸入に依存しているが、ガソリン燃料補助金は継続している。ドルの闇市場が出現し、高い為替レートでペルーやブラジルとの国境を越えてドルを手に入れる人々がいる。基本的生活物資は値上りし、燃料不足による商人や運送業者のデモや道路封鎖も頻繁に起きている。

アルセ政権は、財政逼迫を緩和するための一時的融資の受け入れ、リチウム資源開発のための外国からの投資誘致など経済再活性化策を提示している。一方、大統領選挙出馬を目論むモラレス支持派はそれを阻むために街頭デモを展開している。

**出典**：https://www.servindi.org/actualidad-reportaje/15/07/2024/el-trasfondo-economico-de-la-crisis-politica-en-bolivia

## （2）ベネズエラ大統領選挙

7月28日、ベネズエラで大統領選挙が行われた（有権者約2,140万）。投票率が59%と低かった背景には、有権者の3割強にあたる国外在留者の内約7万人しか投票できなかったことがある。深夜12時過ぎ、選管委員長は、システムへのハッカー攻撃で手間取ったが、開票率80%の段階で、ニコラス･マドゥロ51.2%、野党統一候補エドムンド･ゴンサレス44.2%、他候補合計4.6%で、マドゥロ当選は覆らないとマドゥロ当選を公表した。

野党統一候補側は、選管側要員から提供された州別選挙記録の約80%を照合した段階で、ゴンサレス約711万（得票率67%）、マドゥロ約322万（得票率30%）で、ゴンサレス勝利としている。このデータでは50%対48%と拮抗するスクレ州を除く全州でゴンサレスが60%超の得票率となっている。約1,070の教区単位の照合で85%の教区でゴンサレスが多くの票を獲得したという報告もある。こうしたデータは、ゴンサレス支持50～65%、マドゥロ支持25～44%で、不正がなければ野党統一候補勝利確実という選挙前調査の予測どおりである。

マドゥロ当選に祝意を評したのは、ボリビア、キューバ、ニカラグア、ホンジュラスで、野党候補当選と断定したアルゼンチン、チリ、コスタリカ、ペルー、パナマ、ドミニカ共和国に対し、ベネズエラは大使国外退去措置をとった。「不干渉」の立場のブラジル、メキシコ、コロンビアの大統領は、不正選挙でないと証明するには検証可能なデータ公表が必要と表明した。

野党統一候補側は各地で抗議行動を展開し、各地でチャベス像が破壊された。8月初週の時点で死者20名、逮捕者2千名といわれる。マドゥロは選挙データ公表を言明したが、7月29日深夜の選管発表以降、選挙の最終結果は未だ公表されていない。選挙監視団派遣を拒否された米州機構や大統領選挙出馬者なども要求する選挙記録の全面開示がなければ、「流血の惨事」という事態が起きることも考えられる。

**出典**：https://cnnespanol.cnn.com/category/zona-andina/venezuela/

**編　集　後　記**

ベネズエラ大統領選挙の翌日、選挙管理員会は、「某国」からのデータ転送システムへのハッキング攻撃で開票作業は遅れているが、開票率 80%の段階で現職マドゥロ当選は確実と発表した。

これで思い出したのが、1988 年のメキシコ大統領選挙の「システム･ダウン」である。開票率約 50%以降、開票作業は放映されなくなった。開票処理をするシステムがダウンしたとされる。その段階で全国民主戦線のカルデナスが、制度的革命党のサリナスをリードしていたが、１週間後の最終結果は、サリナス 51.7%、カルデナス 31.1%となっていた。農村部での開票データには PRI 票 100%の選挙区が多くあり、約 45%相当の票が「でっちあげられた」と言われている。

今号は印刷の都合で発送が遅れるので、PDF 版をホームページと Facebook で先に公表します。

小林　致広

次回の印刷作業は東京で、2024 年 11 月 9 日（土）

発送作業は関西で、2024 年 11 月 16 日（土）の予定です。

参加いただける方は、recom@jca.apc.org まで連絡ください。

| | |
|---|---|
| Vol.188　日本からラテンアメリカに広がる「障害者革命」 | Vol.185　コロンビア左派政権樹立から 1 年、終わらない戦争 |
| Vol.187　蜂起から 30 年、サパティスタ運動の現在 | Vol.184　滞在と移動のプロセス メキシコ･グアテマラ国境の事例 |
| Vol.186　2023 年エクアドル大統領選挙、その混乱の中で | Vol.183　いのちの踊り ビオダンサ |

**メーリングリスト**

レコムに入会（もしくは購読）すると、メーリングリストにも無料で参加できます
メールアドレス、自己紹介を添えて、recom@jca.apc.org まで、ご一報ください
メーリングリストに登録します。レコムの活動は会員のみなさんによって支えられています

**会員の種類**

☆会　　員：年　8,000 円 …会の運営、総会参加･投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
☆学生会員：年　5,000 円 …会の運営、総会参加･投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
☆賛助会員：年 10,000 円（一口）　総会参加、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
☆購読会員：年　4,000 円 …『そんりさ』の購読、メーリングリスト参加可

**レコム連絡先**
〒678－0001
兵庫県相生市山手 2－502－1 大西方
お問い合わせは、郵便、もしくは e-mail でお願いします。
ホームページ：http://www.jca.apc.org/recom
https://recom.r-lab.info.
e-mail　：recom@jca.apc.org
Facebook　：https://www.facebook.com/recomsonrisa/

郵便振替口座：00110-7-567396
日本ラテンアメリカ協力ネットワーク
レコム口座　155 万 3974 円
グアテマラ基金口座　71 万 6942 円
（2024 年８月現在）

そんりさ（SONRISA）189 号
2024 年８月 17 日発行
日本ラテンアメリカ協力ネットワーク(RECOM)
定価　400 円